

## 平成 30 年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

### 1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きるための力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

### 2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針として、年度当初に示す学校経営方針に沿った取り組みを進め、生徒の希望や目標の実現を通して、生徒には「来て良かった」、保護者には「行かせて良かった」、学校や塾の先生には、「勤めて良かった」と評価してもらえる教育をめざす。

#### (1) 学校運営

- ①大学入試改革や新学習指導要領改訂への対策
- ②安全対策
- ③設定目標自己診断による学校改革への意欲の向上
- ④中学入試での web 出願

#### (2) 教育実践の充実

- ①教科指導
  - ・公開研究授業の実施
  - ・アクティブラーニングを用いた授業方法・授業内容の工夫改善
  - ・教科会等での自主研修の推進
  - ・中学・高校が連動した指導
  - ・大学入試制度改革・学習指導要領改訂に伴う研究・実践
- ②生徒指導
  - ・挨拶運動の推進
  - ・積極的な生徒指導により、問題事象のない学校に取り組む
  - ・情報端末機器の適正な使用のための指導
- ③進路指導
  - ・進路学習の充実
  - ・退学の防止
- ④人権教育
  - ・人権意識の醸成

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育にかかる授業の工夫改善</li> </ul> <p>⑤情操教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・宗教の時間を通した心豊かな人間の育成</li> </ul> <p>⑥家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会等の開催</li> <li>・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</li> </ul> <p>⑦広報・募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の魅力や特色の発信</li> <li>・教職員一丸となった広報活動</li> <li>・中学での Web 出願の開始</li> </ul> <p>(3) 意識改革と資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間の連携</li> <li>・「生徒による授業アンケート」等の活用</li> <li>・管理職による教職員ヒアリングの実施</li> <li>・教科会、各部会、学年会等の定期開催</li> <li>・企画力の育成</li> </ul> <p>(4) 学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の自主活動の推進</li> <li>・部活動の活性化</li> <li>・中学での海外研修旅行の検討</li> </ul>
---

### 【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>様々なアンケートの結果から、学校としては全体的に円滑に進んでいると考えられる。しかし、受験者数が減少していることから、さらに学校の特色や魅力を発信していく必要がある。特に、総合進学コースに入学してくる生徒に対して、興味のある授業内容・指導方法となるよう取り組んでいく。また、新しい学習指導要領や大学の入試制度改革など、教育改革や教育課題に対して、教職員全員が積極的に関わろうとする意欲を向上させていく。</p> <p>生徒によっては、授業に対する集中力が低い者もあり、授業研究会や教科部会などを通して、ICT の活用など授業の工夫改善を積極的に進めていく。教務や生徒指導や進路指導等の校務分掌では、教職員が組織的・機能的に動いており、一定の成果を収めている。</p>	<p>本年度は大阪北部地震、台風 21 号 24 号などの災害が多く、また、登下校の際の緊急連絡等でスマホ・携帯電話を持たせることの要望が保護者から出ていたが、31 年度中に所持が出来ることから少し安心できる。ただ、学校内での不適切な使用の可能性が広がることから、家庭の協力もさらに必要となる。アンケートの結果から、生徒は学習を頑張っているが、授業の疑問を質問する生徒が少なく、また質問し易い先生には集中化することも多いとの意見があった。一方、中学の一部に学習に集中できない学級もあることから、興味のある授業をお願いしたいとの意見もあった。大学入試制度は変わっていくが、進学のことを考えて本校を選んだ保護者も多いので、大変だと思いがっかり指導願いたい。今後も意見交換を通して、子どもにとっていい学習環境をつくりたい。</p>

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	ア、大学入試改革や新学習指導要領への対策	ア、大学入試改革・学習指導要領改訂に伴う対策委員会を設置し、今後の対応について検討する。	ア、外部の研修会等へ参加するとともに、対策委員会を学期1回程度開催し、研究成果を校内で報告する。	ア、外部研修に参加し成果を各教科会・部会で報告した。新しい指導方法について実践を深める。
	イ、安全対策	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS等について指導することで生徒の安全を確保する。特に増加している自転車事故の防止に努める。また、備蓄倉庫の適正な管理を図る。	イ、防災訓練・交通安全・SNS等の指導を年1回以上実施する。自転車事故の件数を年間50件以下にする。年に1回は備蓄倉庫の用品等の点検をする。	イ、5月に警察官を招聘し全生徒にSNSに関する研修を実施した。防災訓練9/1、交通安全指導9/25に実施した。自転車事故を減少させるのが課題。来年度も実施し、生徒の安全を図る。
	ウ「設定目標自己診断」による学校改革への意欲の向上	ウ、教員が「設定目標自己診断」を実施することで、PDCAサイクルによる学校教育への改善意欲を向上させる。	ウ、各教員の設定した目標について、管理職による全教員へのヒアリングを年1回以上実施し、実施状況を把握し、指導・助言する。	ウ、2学期にヒアリングを実施したが、PDSAサイクルとして推進する意識をさらに高めていく。次年度も実施する。
	エ、中学入試でのWeb出願	エ、中学受験でWeb出願を可能にし、受験生の増員を図る。	エ、募集定員の70名を確保する。	エ、前年度と同数で70人を確保できなかった。入試内容・募集方法を抜本的に見直す必要がある。検討した結果をもとに実施する。
教育実践の充実	<教科指導> ア、公開研究授業の実施 イ、アクティブラーニング等を用いた授業方法・授業内容の工夫改善	ア、教員の授業力や指導力の向上のため、定期的に公開研究授業を実施する。 イ、教員の授業力の向上のため、学期に1回以上はアクティブラーニングを用いた授業に取り組む。	ア、年5回以上の研究授業を実施し、指導力の向上をめざす。教科によっては外部講師を招聘し、指導を受ける。 イ、80%以上の生徒が主体的・対話的で深く学んでいる授業だと思える状況になる。	ア、研究授業を5回以上実施した。中学校で次年度本格実施される道徳の指導を重点化したい。 イ、学期1回以上アクティブラーニングを用いた授業を実施しているが、グループ学習が授業形態とな

教 育 実 践 の 充 実	ウ、教科会等での 自主研修の推進	ウ、各教科で設定した研究テーマ について実践交流をする。	ウ、教科会を学期に 1 回以 上開催し、年度当初に設 定したテーマについて協 議する。	ることが多く、さら に研究が必要。 ウ、学期ごとに教科会 で協議している。今 後も継続して実施し ていく。
	エ、中学・高校が連 動した指導	エ、教科指導・生徒指導面におい て、中学・高校間で段差のない 指導を行う。	エ、各教科のカリキュラム や生徒指導・進路指導に 関して中学・高校連絡会 を開催する。また、中学生 に高校での学習や生活、 進路ついて学ばせる。	エ、教科会の継続実 施。進路指導部長、 生徒指導部長の講話 などを継続して実施 した。今後も中高の 連携を促進する。
	オ、大学入試制度 改革・学習指導 要領改訂に伴う 研究・実践	オ、職員会議等で大学入試改革や 新学習指導要領改訂について 研修し、内容について理解を深 め、授業に生かせるようにす る。	オ、研修会を年 2 回以上開 催し、今後の対応につ いて研究を深め、実践につ なげる。	オ、6/13 の校内教員研 修、職員会議での報 告等を通して実践に つなげられた。今後 も継続して行う。
	<生徒指導> ア、挨拶運動の推 進	ア、生徒会活動や部活動を通して 生徒たちが自然と挨拶を交わ せるようにする。	ア、生徒の 9 割以上が挨拶 していると感じる状況に する。	ア、生徒会、クラブを 中心に挨拶運動を実 施した。さらに効果 が上がるよう創意工 夫して取り組む。
	イ、積極的な生徒 指導により、問 題事象のない学 校に取り組む	イ、事後指導だけでなく事前指導 に重点を置く。生徒との対話を 大切にし、教員と生徒との望ま しい人間関係を構築する。	イ、教職員が積極的に声が けをするとともに、学期 ごとに個人懇談を実施す る。風紀検査での違反者 が全校生徒の 5%未満に する。懲戒事案が 5 件以 内にする。	イ、生徒懇談、挨拶運 動、風紀指導等を通 して生徒との信頼関 係作りを進めた。継 続して取り組む。 風紀違反は 5%未 満。遅刻が減少。懲 戒事案 4 件 5 名。
	ウ、情報端末機器 の適正な使用の ための指導	ウ、スマホ等の学校への持込は禁 止しているが、入学時や生徒集 会等さまざまな機会にとらえて 適正な使用について指導す るとともに、家庭と連携し、問 題事象の減少に努める。	ウ、生徒を対象に、年 2 回以 上の指導と、新入生保護 者を対象とした研修会を 開催する。	ウ、H31 年度より校内 へのスマホ等持参許 可予定。スマホ等の 保有率はかなり高い ことから、保護者を含 め機会あるごとに 指導する。今後も継 続的に指導する。
<進路指導> ア、進路学習の充 実	ア、生徒一人ひとりの特性や能 力、個性等を大切にし、将来を 見据えた進路希望の実現のた	ア、進路 LHR の指導資料を 作成する。生徒・保護者を 対象に入試制度や進路状	ア、計画どおり実施で きた。進学率は約 85%となった。志望	

教育実践の充実	イ、退学の防止	めの指導を行う。	況等について研修会の開催をする。現役合格をめざし、進学率を90%以上にする。	校にこだわり浪人する生徒もいるが、次年度も現役合格率の向上をめざす。
	イ、退学の防止	イ、「入学した生徒を卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。	イ、学期に1回以上の個人懇談を実施し、生徒との信頼関係を構築する。退学率を1%未満にする。	イ、定期的に個人懇談を行い、生徒の把握に努め、退学者は委1人であった。今後も継続して取り組む。
	<人権教育> ア、人権意識の醸成	ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。	ア、「いじめゼロ」を目指す。いじめが起こった場合は適正に対応できるよう研修に努める。	ア、「一人ひとりに寄り添った学級経営」を目標に掲げ指導。いじめは0件であった。引き続き指導に努める。
	イ、人権教育にかかる授業の工夫改善	イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。校外での研修会に参加し、他校の実践に学ぶ。	イ、資料や指導方法・指導内容について研究・検討するとともに、校外の研修会に10人以上が参加する。	イ、校外研修に10人以上が参加し、指導方法・指導内容について研究した。今後も研究を続ける。次年度は研究会で発表が予定されている。
	<情操教育> ア、道徳教育の充実	ア、人間としての生き方を学び、それを自身の生活に生かす	ア、道徳・情操教育委員会を学期ごとに開催し、年間計画を樹立する。道徳の時間の授業研究を行い、全面実施に備える。	ア、年間計画を作成し、次年度からの道徳の本格実施に備えるとともに評価のあり方を検討した。
	イ、宗教の時間を通じた心豊かな人間の育成	イ、他校の実践も参考にしながら指導内容・指導方法について研究を深め、実践につなげる。	イ、指導内容の連絡調整を図る宗教担当者会議と、宗教に関する校内研修を年1回以上開催する。	イ、学校外の見学者と宗教の時間について交流を行った。計画に基づき研修を実施した。次年度も継続して実施する。
<家庭との連携> ア、保護者会等の開催	ア、各種の説明会や保護者会を有効活用し、保護者との連携を図る。	ア、各学級において保護者会を年間2回以上開催し、連携を図る。	ア、2回以上の懇談会を実施。状況に応じて数多く実施している。今後も継続して保護者との連携を図る。	

<p>教育実践の充実</p>	<p>イ、ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行</p> <p>〈広報・募集活動〉</p> <p>ア、学校の魅力や特色の発信</p> <p>イ、教職員一丸となった広報活動</p> <p>ウ、中学でのWeb出願の開始</p>	<p>イ、ホームページの随時更新と学校新聞・中学新聞等の定期発行を通して、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p>ア、学校案内・ホームページを活用し、生徒の出身学校や塾等を訪問し、学校紹介をするとともに意見交換を通して学校の特色等を発信する。</p> <p>イ、入試広報部と教職員が連携し、本校の取り組みや学校の魅力について発信する。</p> <p>ウ、Web出願が受験生の確保につながるよう努める</p>	<p>イ、ホームページに各行事やトピックス等を随時更新して載せる。金光八尾新聞年2回、中学新聞・保健室便りなど毎月1回、定期的に発行する。</p> <p>ア、学校の特色・魅力や進路実績を発信することで、中学(70人)、高校(240人)の定員を確保する。</p> <p>イ、オープンスクール・学校説明会・私学展等に、広報部職員と教員が参加し、受験生や保護者に対して本校の魅力を発信する。</p> <p>ウ、入試事務が円滑に進むよう準備を整える。</p>	<p>イ、HPを随時更新して発信。通信は定期的に発信している。成果があるので、今後も継続して情報の発信に努める。</p> <p>ア、中学・高校ともに定員の確保はできなかった。魅力ある学校についての再点検をし、次年度の募集活動に生かす。</p> <p>イ、入試広報部と教員と協力して広報活動を進めているが、引き続き取り組みを進める。</p> <p>ウ、入試事務を円滑に進めることが出来たが、定数には満たなかった。</p>
<p>意識改革と資質向上</p>	<p>ア、教職員間の連携</p> <p>イ、「生徒による授業アンケート」等の活用</p> <p>ウ、管理職による教職員ヒアリングの実施</p> <p>エ、教科会、各部会、学年会等の定期開催</p>	<p>ア、報告・連絡(連携)・相談を徹底し、組織力の向上を図る。</p> <p>イ、「生徒による授業アンケート」により授業の実態を把握する。教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業に生かす。</p> <p>ウ、管理職とのヒアリングを通して学校運営等について教職員と意見交換する。</p> <p>エ、教科会、部会、学年会を定期開催し、情報交換や、受講した研修内容等について報告する。</p>	<p>ア、管理職と各部長で構成する運営委員会の充実と、中学部会・高校各学年会の週ごとの定例開催。</p> <p>イ、各教職員の授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上獲得できるようにする。</p> <p>ウ、管理職と教職員が、年1回以上学校運営等について意見交換する。</p> <p>エ、中学部会・各学年会を毎週開催するとともに、教科会・各部会を年3回以上開催し、課題について意見交換をする。</p>	<p>ア、定例的な開催はできたが、深い協議は出来なかった。今後は課題を絞りながら進めていく。</p> <p>イ、アンケート結果はほとんどが80%を超えているが、低い項目を補強できるように指導する。</p> <p>ウ、すべての教員からヒアリングを行い、一定の成果があった。次年度も続ける。</p> <p>エ、予定どおり会議を開催し、意見交換ができたが、さらに協議を深めていく。</p>

	オ、企画力の育成	オ、学校・学年行事等の実施後に意見や改善点を集約し、行事内容のさらなる充実を図る。 外部での研修を通して、学校運営への参画意欲を向上させる。	オ、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。 校外での研修会等に延べ30人以上が参加する。	オ、改善意欲はあるものの行動化に進んでいない。様々な事例を知ることによって行動化につなげたい。
学 校 行 事	ア、生徒会の自主活動の推進  イ、部活動の活性化  ウ、中学での海外研修旅行の検討	ア、生徒会役員や各クラブ員が自主的・自立的に、文化祭、挨拶運動、奉仕活動等に参加するよう支援する。 イ、部活動を通して生徒の自主活動を推進させる。  ウ、2021年度実施に向け、課題等を含め研究する。	ア、行事を通して生徒が自主的に活動を行っていると感じるのが80%以上になるようにする。 イ、部活動への入部率が、中学で80%以上、高校で45%以上をめざす。クラブ勧誘活動を促す。  ウ、研修地の決定。	ア、肯定的な評価をしているが、文化祭等でさらに活性化をさせる必要がある。 イ、高校では講習終了時刻との関係もあり、40%を越えられないが今後も入部を促す。中学校は80%を超えている。 ウ、研修地をオーストラリアのケアンズに決定し、来年度からの2年間で、系統的な中学英語教育が進むよう計画する。